

平成 24 年度第 2 回修習セミナー報告

中国本部修習技術者支援委員会

委員長 亀田 雄二

広島県 建設部門



平成 24 年 6 月 2 日(土)、鳥取県湯梨浜町の国民宿舎「水明荘」において、平成 24 年度第 2 回修習セミナーを開催しましたので、ご報告します。

1. 内容

司会は、修習技術者支援委員会の福元委員です。内容は以下のとおりです。

10:00～11:15 「修習体験談」

河原 正史氏(建設部門)

萩 義紀氏(建設部門)

伊藤 洋介氏(建設部門)

※各 20 分の発表と 5 分の質疑

11:15～12:00 「部門トピック」

亀田 雄二(建設部門)

2. 修習体験談

修習体験談について、各発表者別に概要と印象に残ったことを記述します。

河原氏には行政の立場からお話いただきました。建設一般は、行政マンは有利だとおっしゃりながら、国土交通白書を熟読されるなど、独学で非常にオーソドックスな勉強法を実践されたということが印象に残りました。もう、受かるべくして、受かったのだなと感心しました。

萩氏も行政マンですが、萩氏はインターネットの情報を始めとして、出来る限りのツールを使用して勉強されたようです。口頭試験の 2 週間前に行った模擬試験で、徹底的な指導を受け、一時モチベーションが下がったが、逆にこれが非常に役立ったというお話が印象に残りました。確かに口頭模擬試験は、非常に役立つという話をよく聞きます。周囲の方のご協力による複数回の模擬試験を体験する

ことをお勧めします。

伊藤氏は、建設コンサルタント勤務です。主に論文テクニックについてお話頂きました。流石にご用意頂いたパワーポイント資料は、非常に分かりやすいものでした。

修習体験談をお聞きしていつも考えることがあります。もちろん、合格された方がどのような勉強をしてこられたのかは、非常に参考になります。しかし、修習体験談実施の必要性は、修習を経て、自信を持って発表される先輩技術士として育った姿を見せることで、修習技術者のモチベーションを否定なく高めることにあるのではないかと考えるのです。修習技術者を指導される立場である技術士の方も多く参加頂きましたが、技術士の方にも技術士なりたての初心に帰るまたとない機会を提供する意義を感じます。

2. 部門トピック

出席者の多くが、建設部門ということで、建設を中心に最近のトピックをお話させて頂きました。日本学会会議の HP が将来技術を把握する上で、参考になることに触れました。

3. 感謝

今回のセミナーの発表者、参加者、そして準備にご協力いただいた皆様、「ありがとうございました」！



セミナー風景